

実は、人と一緒にご飯を食べるのが苦手です。

軽い気持ちで、よ、昼飯行こうよ、などと誘われると、そ、そうだね、などと応えるものの、心の中は地獄です。昼はなんだか断りづらいショエーションなだけに。

今日、夜、ご飯いこうよ、という誘いなら断りやすいんですね。あ、ちょっと用事が入っててさ、いやー残念だなあ、今度ぜひ！などと断りやすい。ただ、夜の場合は「お酒を飲もう」という意味合いが強い時が多いので断ることはほとんどありません。

さて、ランチに誘われる苦痛。一般的我々仕事をしている人達の昼ご飯なんて、せいぜい定食だとか、中華屋さんとか、お蕎麦屋さんくらいなものじゃないですか？。ランチに高級フレンチだとかお寿司だとか、そういう選択肢はあまり現実的じゃない。せいぜい1時間くらいのランチタイムだしさ。

食事の仕方って、その人の受けて来た食に対する嫌とかクセがものすごく出ると思うんです。当然僕も含めて。

あるとき、同僚と生姜焼き定食を食べていたと思ってください。その同僚は、おもむろに、みそ汁の具を余すことがなく箸でザバリと掬いだして、熱々のご飯の上にまたまたザバリと載せちゃう。これだと香ばしい生姜焼きを一箸つまみあげ、白いご飯にワンバウンドさせて、その部分のご飯と一緒に口に入れて楽しむ、ということができるないじやん、だってさ、ご飯はすでにみそ汁の具でビタビ

タだから。なんだか不思議な目で見ちゃう。おそらくそ

の彼はサバ味噌煮定食であろうがハンバーグ定食であろうが、きっと、まず、みそ汁の具をご飯の上に広げるという進め方をするのでしょうか。きっと彼の育ってきた家庭ではその食べ方がスンダードだったんだなあ、とか。またある人は旅館の朝食で、とにかく最初に納豆と生卵をかき回していきなり白いご飯にかけちゃうとか。美味しそうな鰯の開きやお刺身なんかもトレーの中にならんでいるのに。とか。そんなのみんなの自由だし正しい間違いなんてことも無いんだけど、へえ、そういうふうに食べるんだあと、やっぱり不思議な感じで眺めちゃう。

僕も時々、不思議そうに見られる時があります。僕はラーメンにお酢を入れたがります。

どんなジャンルのラーメンでもテーブルの上にお酢があれば、中盤まで食べ進めたところで必ずお酢投入、しかもワリと大量に。そんな僕を見て向かいに座る友人はビックリします。いいんです。「お酢を入れれば絶対に胸焼けしない」というお酢信仰が子どもの頃から根付いているのですから。僕の両親にその傾向があつたからですね。あと、ほうれん草のお浸しには、どうかマヨネーズをかけてくれ、とか。こんなふうな食べ方の個性って本当に人それぞれ。

団らんのゴハンは別ですよ。

でも、きっとそういうヒト、けっこう多いんじゃないかな。

一年も半分終わった大変な時代にまたまた何言ってんだかわからなくてごめんなさい。

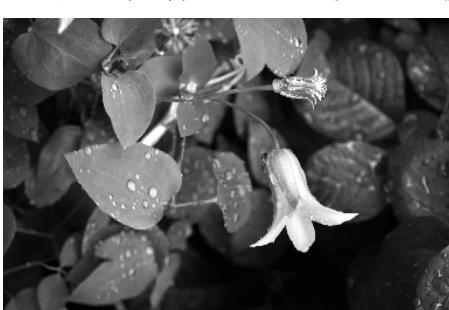


Photo:藤間 久子『Slowly』

岡山県生まれ。JPS(日本写真家協会)会員。カメラマンとして活動の傍ら、個展やフォト&エッセイなど自分の作品づくりに励んでいます。